

# 訴訟派の一行が上京

## 吉岡元チ ツソ社長 臨床尋問見守る

三十、三十一の両日、東京・神田の友登クリニクで行なわれる熊本地裁の吉岡元チツソ社長（現相談役）臨床尋問を見守るため、水俣病患者家庭互助会の渡辺菜蔵さんから訴訟派の患者、家族十四人と日吉フミコさんから水俣病市民会

議の代表、同告発する会の会員各四人が、二十八日午前十時四十分着の特急「みずほ」で上京した。東京駅ホームには、映画「水俣」の土本典昭監督、俳優の砂田侯さんら東京・水俣病を告発する会の会員約六十人が「怨」の黒ノ

ボリを押し立てて出迎え「水俣病裁判勝利のため東京に攻め上つてこられた皆さんを歓迎し、戦う東京行動を強力に展開したい」と激励した。

これに対して、渡辺菜蔵さんが「富山は勝った。新潟も近く判決が出る。われわれも勝利を信じてがんばる」とあいさつ、日吉さんも「さきの行政不服審査請求に対

する環境庁長官の差し戻し判決は、われわれの勝利を暗示するものだ。今後もご支援を」と謝辞を述べた。また患者の一人牛島直さん（セー）水俣市袋一は、この春獲得したメジロ朝鳴大会の三本目の優勝旗をかざしながら「四つ目の勝利は水俣病裁判で勝ちとりたい」と語り、拍手を浴びた。

このあと一行は国電で波谷へ直



出迎えの人たちにあいさつする渡辺さん

行、東京・水俣病を告発する会の

会員といっしょに街頭カンパを行  
ない、夜は代々木初台の劇団「三  
十人会」で開かれた水俣・東京の  
交流集会に出席した。

二十九日は正午から油袋の歩行  
者天国で街頭カンパ、夜は「三十  
人会」での討論集会に出席。三  
十、三十一日は熊本地裁の臨床尋  
問を見守ったあと、二日の「はや

ぶさ」で帰る予定。

（東京支社）